

発掘体験セミナー@ 酒呑場遺跡

SAKENOMIBA SITE

2017年7月8日(土)開催 山梨県埋蔵文化財センター

さけのみばいせき

酒呑場遺跡のここがスゴイ！

①全国に認められた出土品！

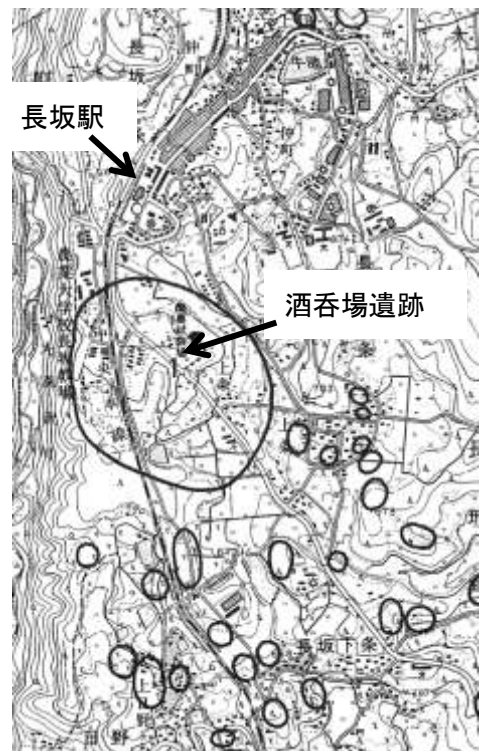
これまでの調査で出土した縄文時代の土器や石器など683点が、この地域を代表するものとして、平成25年度に国の重要文化財に指定されました。

②大規模な集落遺跡！

今まで見つかった住居の数は、なんと220軒！円を描くように次々と家が造られているのが特長です。出土品の中には、遠くから持ち運ばれた石材を使った石器も見つかっています。

③継続的に営まれたムラ

縄文時代の前期から後期の初め（6000年前から3800年前ころ）まで、2000年以上にわたって継続的に集落がつけられました。



酒呑場遺跡は北杜市長坂町長坂上条621-2にあります。北杜市には他にも金生（きんせい）遺跡などの有名な縄文時代の遺跡がありますよ！

今回の発掘調査で分かったことは？

今回の調査地点は、350㎡の範囲の中から、住居跡を3軒確認しました(7月6日現在)。まだ調査していない部分があるので、これから増えるかもしれません。1号住居と4号住居の真ん中付近からは、大きな石で四角に囲った「炉」がみつかりました。また、住居を埋めている土の中から、完全な形に近い土器が、捨てられたように出てきました。住居が使われなくなってくぼんだ土地に、土器を捨てたのだと思います。

土器の形や文様から、土器の造られた年代があるていど分かるようになってきています。4号住居・5号住居の土器は縄文時代中期後半(4300年ほど前)の特徴をもっています。過去に調査された東側の調査区も同じ時期の住居が多く、集落が広がっている様子を確認することができました。



4号住居に廃棄されていた土器



発掘調査の進め方は？

1. 重機を使って遺跡の上に積もった土を取りのぞきます。



写真：土を掘っている様子

2. ジョレンという道具を使って、地面を平らにしていきます。きれいに平らにすると、家の跡などが分かってきます。



写真：人力で土をならしている様子

3. 1号住居跡が発見された時の様子です。



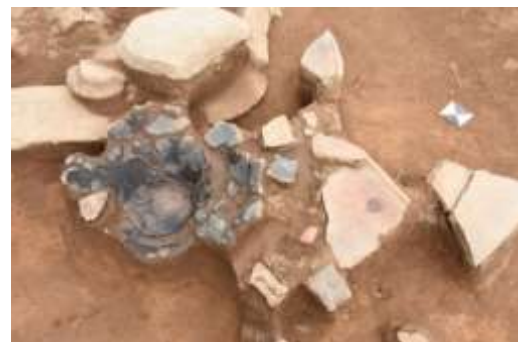
写真：1号住居跡の見つかった様子

4. 住居跡の中を、移植ごてなどを使って慎重に掘っていきます。



写真：1号住居を4つのブロックに分けて調査

5. 土器などが出てきた場合は、写真撮影をして、図面を描いて記録します。



写真：土器が形のまま出てきました

6. 全部掘りあげたら、また写真撮影と、図面を作成します。これで完成！



写真：黒い土を全部掘りあげました。

いせき コラム①遺跡ってなあに？

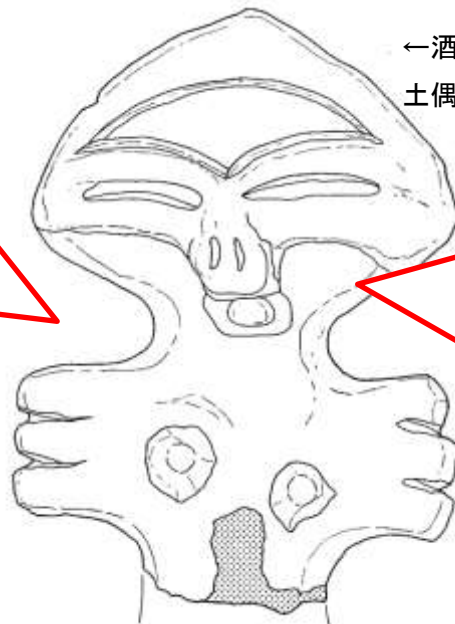
昔の人々が住んでいた”こん跡”を「遺跡」と呼びます。例えば、昔の人々は地面に穴を掘って、おうちを造っていました（これを、たてあなじゆうきょ 竪穴住居といいます）。遺跡からは、昔の人々の使った道具なども発見されます。遺跡を調査することによって、昔の人々がどんな生活をしていたかを知ることができます。



コラム②どうして遺跡を調査するの？

遺跡の調査は、Ⅰ.遺跡のことをもっと知るための調査と、Ⅱ. 遺跡の上に建物や道路ができるときに事前にする調査、の大きく二つのパターンがあります。今回の酒呑場遺跡の調査の場合は、Ⅱのパターンで、研究棟ができる位置に遺跡があるので調査を行うこととなりました。

←酒呑場遺跡C区 19号住居出土の土偶ちゃんです



山梨県埋蔵文化財センターでは、遺跡の調査、史跡でのイベントなど様々な事業をおこなっています。ぜひ、これからも山梨県埋蔵文化財センターのイベントにご参加ください！

今後の発掘調査情報は埋蔵文化財センターのホームページで更新していきます。楽しみにしていて下さい。ホームページでは、山梨県の遺跡のことをもっと知ることができますよ！

山梨県埋蔵文化財センター

検索